

高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

『KANNO』を見てきました。日本人学校にも、出演依頼が来ていました。いくつか声をかけたのですが、出演希望がありませんでした。塩沢先生が似合うのではないかと話をしてみたのですが、だめでした。出演したら、今頃、人生が変わっていたかも。

時代背景を意識したのでしょうか、八田與一（大沢たかおがやっていた）もところどころにでていました。ほぼ満員の館内は、30歳以上と思われる人は、ほんの数人、圧倒的に高校生、大学生という感じです。

私は、なぜか、涙が出てきました。『セディック・バレ』を見たときは、淡々と見ていた気がします。映画の中で、甲子園に行って、一回戦に勝ったときの記者会見で、記者が「日本人と漢人と原住民で意志の疎通はどうするのだ？」と聞いていました。日本人がそこで「質問の意味がわかりません」と応えていました。

私達も台湾に住んでいて、確かに言葉の壁は感じます。また、習慣の壁も感じます。法の壁も感じます。

3年間台湾の日本語ができる人たちとの交流を通して、たとえ、言葉のハンディーがあっても大丈夫、という自信ができました。タイにいたときもそうは感じていましたが、圧倒的に日本語ができる人の数が違います。一緒に物事をやっていると、特に「何人（なにじん）」というのは、意識することはありません。子ども達を見ていてもそう思います。

野球を通すと、「仲間になる」と思って、映画を見ていました。

台湾の新しい教科書は、日本の統治時代について、歴史的名称を変えるよう（日本人にとってはありがたくない）になると新聞にありました。また、だいたい40歳以上75歳未満は、台湾の教育では反日的なこともありました。日本語を解さない人たちはこの年代が多い気がします。私達一人一人の言動が台湾の人たちの日本観を変えてしまいます。私の周囲でも、同じ態度を日本でも取っているのかな？と疑問をもってしまう人もいます。

4月14日（月）

朝学習をのぞいてみました。4年生教室で牛木先生が「字がきれいですね」子どもが「ありがとうございます」と。3年生教室でも、原先生が一人一人よく見ていました。原先生は、一日目の最初から「ことれん」をしていて、驚いたようです。（子ども達は、普通にしていますが）6年生もよってみました。私が赴任してきたときの、3年生です。大き

くなったもんだ。それに、冗談が通じる。大人になったんだね。

中学2年生が、学級開きで構成的グループエンカウンターをやっていました。目隠しした人をもう一人が手を引き、安全に配慮しながら、いろんなことを体験させる。といっても、散歩程度ですが、遊具の上まで登らせているペアもありました。私も子どもにやらせる前に体験したことがあります、かなり、こわい。だんだんとペアの人が信頼できるようになり、導かれうごけるようになりました。どんな感想がでたか楽しみです。

4月15日(火)

歯科検診がありました。終わってから先生に、今年はどうですか?とお聞きしたところ、特に心配はありません。でも、3割くらいが虫歯ですので、直した方がいいですね。とのことでした。私も、こちらにきて、詰めたのが取れました。住んでいるところの裏が学校医さんのところですが、行くのがおっくうです。

新規の先生方と交流協会にあいさつに行ってきました。KANOも話題になりました。中村所長と坂田日本人学校担当がお相手してくださいました。

4月17日(木)

朝の会に小1教室によりました。6年生が絵本を読んでやっていました。きっと、ニルスのおもしろかたという題の本だと思います。3年生でも菅原先生が本を読んでやっていて、終わったら「おもしろかった」という感想、その後は、すぐに読書をしていました。

内科検診がありました。大きな異常は見えませんでした、PM2.5の関係もあり、呼吸器が弱い子どもが心配ですねという、終わってからの話でした。

健診等が終わりましたら、『保健連絡カード』(25日配布予定)がご家庭にいきますので、ご覧になって適切な対応をお願いします。

PM2.5が30台と大変低く、そのまま、そのまま。

午後は、毎年実施している心肺蘇生の研修を職員全員で行いました。使わないで済むことを望みます。また、先生方が台湾を理解するための研修をどのようにするかという話し合い、授業をどのようにわかりやすく、興味深くするか1年の見通しについての話し合いを行いました。

4月18日(金)

身体測定を実施しました。

午後には、先生方で、不審者が入ってきたときの対応について実地訓練をしながら研修を行います。